



4th Dimension バージョン 2003.3 へようこそ。

本ドキュメントは、Mac OS X 上での印刷に関する重要な変更点について説明します。

Mac OS X 上での印刷に対する変更点

Mac OS X において、デフォルトでは印刷が PDF として行われます。PDF 用のプリントドライバは、EPS (encapsulated PostScript) 情報を含む PICT ピクチャをサポートしません。これらのピクチャとは、例えば、ベクトル描画用ソフトで作成されたものです。

4th Dimension の前リリースでは、この問題に対処するため、印刷ジョブは“強制的に” PostScript モードで実行されていました。しかし、この処理によって望ましくない影響がありました。

4th Dimension 2003.3 より、新しいソリューションが利用できるようになります。デフォルトとして印刷ジョブは PDF (標準モード) で実行され、開発者は必要に応じ、**SET PRINT OPTION** コマンドや **GET PRINT OPTION** を使用して、この設定を変更することができます。

SET PRINT OPTION / GET PRINT OPTION (“印刷” テーマ)

SET PRINT OPTION(オプション; 値 1{; 値 2})

GET PRINT OPTION(オプション; 値 1{; 値 2})

SET PRINT OPTION コマンドを使用し、プログラムからプリントオプションの値を変更することができます。プリントパラメータを変更する他のコマンド (**PRINT SETTINGS**、引数 “>” を使用しない **PRINT SELECTION**) が呼び出されない限り、このコマンドを使用して定義された各オプションは、4D セッションの間データベース全体に対して適用されます。

4th Dimension 2003.3 では、引数 <オプション> に新しい値を使用することができ、この値により Mac OS X 上でのカレントセッションに対する印刷モードの設定を行うことができます。

■ Mac spool file format option(13)：印刷ジョブをPDFモード（デフォルト値）に設定する場合には0を、印刷ジョブを“強制的に” PostScriptモード（EPSを伴う PICTピクチャの印刷）に設定する場合には1を渡します。

また、このオプションは、4D Write および 4D View プラグインの印刷モードも変更します。

ただし、このオプションはMac OS 9およびWindows上では無効です。

重要：デフォルトではモード“0”が使用されます。前回使用したモードを維持しておきたい場合（特にデータベース内にEPS（encapsuled PostScript）を伴う PICTピクチャが存在する場合）、このオプションに値1を指定して必ず呼び出さなくてはなりません。

自動クライアント接続機能

環境設定の「アプリケーション」テーマにある「クライアント／サーバ」ページに、新しく「自動クライアント接続機能を使用する」オプションが追加されました。このローレベル機能は、特定の構成内において、予期しない切断の時にクライアントマシンを自動的に再接続することを可能にします。

このオプションが選択されている場合（すべてのクライアントに適応されます）、サーバへの接続が失われたとき、クライアントが再接続を1度だけ試みます。

再接続に失敗した場合には-10002のエラーが表示されます。

再接続が成功した場合、Windows上ではタスクバーにアイコンが表示されます。

注意：自動クライアント接続機能を使用するには、クライアント／サーバ接続タイムアウトを1分以上に設定してください。